

第8章 児童生徒の学力向上のための今後の取組

「毎日が未来への分岐点」との認識のもと、全ては子どもたちの笑顔のために、授業改善等の取組の凡事徹底を進めるとともに、子どもたちが達成感・自己肯定感を持ち、その能力を最大限に引き出すことができるよう、県教育委員会では教育行政の立場から創意工夫した取組を進め、学校・家庭・地域の取組を支援してまいります。

《今後の主な取組》

下線：新たに行う取組等

1

学校での組織的な取組（学校での取組の質を高めるために）

○校長のリーダーシップによる組織的・継続的な学校体制づくり

- ⇒ ・ 県の指導主事、研修主事による学校訪問
- ・ 教育支援事務所によるオーダーメイドの支援
- ・ 習熟度やT Tによる指導の充実のための支援

○子どもたちが、見通しを持って主体的に学ぶことができる授業改善の取組の徹底

- ⇒ ・ 国の調査官を招へいした研修会等の充実（中学校国語、小学校外国語活動等を新規実施）
- ・ 指導主事、指導教諭等による授業実践の横展開
- ・ 県内外の効果的な取組の事例収集及び共有（効果的な少人数指導、効果的な振り返り、復習につながる宿題の出し方 等）

○全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシートの3点セット等の年間を通じた計画的な活用の徹底

- ⇒ ・ ワークシートの質的・量的充実（リーディングスキル*を含むものも作成）

*教科書程度の日本語の文章の意味を正確に読み取れているか（例：主語が分かるか等）

○教育に関わる困難な状況や課題を有する学校への支援

- ⇒ ・ 市町等教育委員会と連携した効果的な教員配置
- ・ 少人数指導のための教員定数の配置の工夫

等

2

家庭での過ごし方

○家庭における生活習慣、読書習慣等の確立

- ⇒ ・ 「三重県家庭教育の充実に向けた応援戦略（仮称）」の策定と具体的取組の展開
- ・ 生活習慣・読書習慣等の確立に向けたチェックシート集中取組の推進

○情報に関するリスクやモラルについての教育・啓発の支援

- ⇒ ・ 児童生徒の情報モラルの育成や教職員の指導力向上を図るため、「ネットトラブル対応事例集」を作成・周知し、その事例集を活用した取組を推進
- ・ 児童生徒のインターネットの適切な利用等に対する知識・態度の育成を目的とした、みえネットスキルアップサポートを実施

- ・保護者への啓発を目的としたネット啓発講座を実施
- ・問題のある書き込みの検索、監視等を目的としたネット検索(ネットパトロール)の継続実施

○子どもたちが安心して学べる環境づくりの推進

全公立中学校区にスクールカウンセラーを配置し、小学校から中学校への途切れのない支援の充実を図るとともに、福祉機関等の関係機関と連携するスクールソーシャルワーカーを効果的に活用

- ⇒・各学校におけるスクールソーシャルワーカーの一層の認知度向上を図るため、「スクールソーシャルワーカー活用事例集」を作成・周知し、その事例集を活用した取組を推進
- ・児童虐待防止に向け、「学校での児童虐待気づきリスト」を作成・周知し、そのリストを活用した取組を推進

○読書をととした学びの促進と生涯にわたる読書習慣の確立

- ⇒・「第三次三重県子ども読書活動推進計画」に基づく読書活動の推進
- ・読書の楽しさや大切さを周囲に伝え、本と人、図書館と人をつなぐ読書活動のリーダー「子ども司書」の育成
 - ・小中学校へのビブリオバトルの普及（小中学校の教員を対象とした講習会の実施）等

3 地域との関わり

○コミュニティ・スクール、学校支援地域本部（地域未来塾を含む）等の拡充

- ⇒・先進県（山口県）視察を踏まえ、三重県の取組に活用（若手教師の人材育成手法の一環として、中学校での教科を越えた授業研究等）
- ・地域とともにある学校づくりサポーターの派遣
 - ・大学生や退職教員等の地域住民の知識・技能を活用した学校支援体制づくりを促進
 - ・コミュニティ・スクール等への認識を深めるため、教職員研修を実施

○子どもの教育に関わる地域のネットワークの構築

- ⇒・コミュニティ・スクールや学校支援地域本部、放課後子ども教室等の関係者、社会教育委員、市町の関係職員等の交流会の開催

○教育活動全体をととしたキャリア教育の充実

- ⇒・各学校が社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成できるよう、子どもたちや学校、地域の実態に応じたキャリア教育計画（全体計画・年間指導計画）の策定等を推進

○教育的に不利な環境にある子どもの自尊感情を高める取組の充実

- ⇒・教育的に不利な環境にある子どもの自尊感情や学習意欲を高めるため、学校・家庭・地域がともに学習支援や体験活動を行う「子ども支援ネットワーク」の活動を活性化

等

《主体的な取組に向けて》

本年度の全国学力・学習状況調査の結果は、小学校4教科のうち2教科（国語B、算数A）で全国の平均正答率を上回り、中学校4教科のうち1教科（数学A）で全国の平均正答率と同じ水準という結果となり、一定前進しました。

また、昨年度は、全国の平均正答率との差が調査開始以来最も縮まり、全国の中でも大きな学力の伸びが見られました。本年度は、その差や無解答率も6教科で昨年度より更に改善されました。

このことは、子どもたちが粘り強く取り組んだ結果であり、学校・家庭・地域等が一体となって学力を育む取組を進めていただいた結果であると考えています。

学校関係者の皆様へ

本年度の結果は、校長のリーダーシップのもと、めあての提示や、振り返る活動の設定等の組織的・継続的な取組が更に進んだ結果であると考えます。早期に授業改善のPDCAサイクルを構築し、学習内容の定着状況に応じたきめ細かな計画的な取組とともに、子どもたち一人ひとりのがんばりを認めたり、子どもたちが分かるまでていねいに教えたりしたこと等が、子どもたちの「分かった」という意識を高め、子どもたちの主体的に根気よく取り組む姿に結び付いています。

今後も子どもたちが「できるようになった」という達成感を積み重ねていくためにもこれまでの取組を一層充実させるとともに、例えば、

○ノート指導、復習につながる振り返りや宿題の出し方

○次期学習指導要領も見据えた主体的・協働的な授業への取組
等
更なる質の充実を図っていただきますようお願いします。

なお、昨年度に引き続き、全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシート（3点セット）等の活用につきましても、年間を通じ計画的に活用し、日々の授業や個別のきめ細かな指導に役立てていただきますようお願いします。

また、みえの学力向上県民運動セカンドステージの趣旨を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちに学力を育むためにも、分析結果等については家庭・地域への情報共有や説明等を行い、取組を進めていただくことが重要です。

保護者の皆様へ

毎日の朝食等の基本的な生活習慣や、テレビの視聴時間等は改善が見られます。一方、スマホの使用時間や、家での学習習慣（学習時間、復習等）、自主的な読書の時間については引き続き課題が見られます。スマホの適切な使用、学習習慣や読書習慣等について、家庭で話し合っ規則をつくったり、大人自身が率先して読書を行い、子どもと読んだ本について語り合ったりする等、家庭における生活習慣、読書習慣等の確立へのご理解・ご協力をお願いします。

地域住民の皆様へ

子どもたちの地域行事への参加や地域等で起こっている出来事等への関心は全国に比べて高い傾向にあります。一方で、地域社会などでのボランティア活動への参加は依然として低く、全国と比べても低い状況です。同様に、PTAや地域の人などの学校の諸活動へのボランティア参加も全国と比べると低く、子どもたちも大人も主体的な関わりによる活動に、課題が見られます。

子どもたちは大人の姿を見て育ちます。多くの多様な大人が主体的・積極的に学校や地

域へ関わっていくような質の高まりが重要です。

子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場を通して、自尊感情・自己肯定感を高めることができるよう、子どもたちへの積極的な関わりや地域における学習支援や居場所づくりなど、地域で子どもたちを支えていただきますようご理解・ご協力をお願いします。

「子どもの問題は、大人の問題」です。

子どもたちは、一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばして支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともしることであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないよう、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成28年度からの4年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組めます。

（「みえの学力向上県民運動 基本方針」より一部抜粋）